

貧しくさせられた国々の債務帳消しキャンペーンニュース

2010年2月

ハイチ

(去年は忙しくてニュースレターを出せなかった。ご免なさい。)今これを書きながらインターネットのラジオでハイチの天災の話を聞いている。大変だ。債務のことがアメリカ、ヨーロッパなどのメディアでは取り上げられている。ハイチも債務を抱えているからだ。ハイチは2009年に利子として50億円も払った。ⁱ Yes。世界の最も貧しい(貧しくさせられた)国々の一つは利子だけで50億円も払った。酷い! 憤る! 今ハイチが立ち直る為、先ず債務を帳消ししなければならないと多くの人々も団体も叫んでいる。債務を返済している為にハイチは(地震に耐える)丈夫なビルなどを建てることができなかつたと考えられる。しかもハイチの債務の半分は汚い債務だ。ハイチの独裁主義者に貸した債務だ。ⁱⁱ その独裁主義者の中にデュヴァリエという親方で残酷さと腐敗で有名な者がいた。

多くの国々では人々はハイチの為の募金活動している。芸能人やミュージシャンもコンサートを開いている。一つのコンサートは57億円も集めたそう。しかし債務を帳消ししないと募金してハイチに送ったお金は債務返済に回される可能性がある。つまり、ハイチの人々を助けないかも知れない。右手であげて、左手でとる。

もう一つの話は地震の直ぐ後巡洋航海用の大型船がハイチのプライベートビーチに寄った。地震の中心地から100キロ離れているところだ。こんな時に、近くで沢山の人が苦しんでいる時に遊んでも良いかという議論があった。船は困った人々に食料品、薬などを運ぶから良いと船会社は弁明した。食料品、薬などを運べば貧しい国のプライベートビーチで遊んでいいだろうか? 私は疑問を持つ。豊かな国々(私たちは貧しい国々から債務返済としてお金、又資源、

安い商品(衣類、運動靴)などを奪っているから豊かなのだ。お金(時間も)が余っているから巡洋航海用の大型船に乗るのではないか。厳しいだろうか。巡洋航海用の大型船だけでなく、飛行機でも海外に行くのは当たり前と思っている私たち。乗りながら二酸化炭素を排出して温暖化を起こして環境も破壊する私たち。生活の仕方を考え直す必要がある。

速報

「新しいハイチを造る為」という計画を論議する為に数カ国の外務大臣がこの間モンテリオールで集まった。参加者の中ではヒラリー・クリントン国務長官、世界銀行および国際通貨基金を含む国際金融機関の代表、カナダの外務大臣とハイチの総理大臣。色々な団体はこの集會に反対した。その一つであるHaiti Action Montrealによると強い国々はハイチ人を助ける為ではなく(強い国々の)企業を助ける為に地震を利用する危険があると主張した。ナオミ・クライン(活動家と作家)によれば強い国々はすでにハイチの地震を利用して企業を助けようとしている。クラインが言うのは危機(災害など)の時に豊かな国々、世界銀行などは民営化などを強制するように努力する。(民営化された電力会社、水道会社などは豊かな国々の会社を買収する。買収後、値上げすることが多い。)ヘリテージ財団はハイチの悲劇的な地震への米国の応答はハイチの長く機能しない政府と経済を「改善」する為に造り直す機会を提供すると言った。クリントン大統領のハイチへの特使ジェームス・ドビンズも同じようなことを言った: 「この災害は国の電話独占と(国営の)港を分割するか少なくとも再構成する機会だ。」(コメント: 政府と経済を改善することは良いことだ

けど、改善を行うべきのはハイチの国民だ。) The Nation (雑誌)によると傭兵会社がハイチで仕事を狙っている。ハイチの「衣服の製造工業」に投資する話もあるそうだ。これは搾取工場のことだ。ⁱⁱⁱ

搾取工場

労働は、過酷を極める。12～16時間労働で深夜に及ぶシフトがあり、残業手当はないか、ごく小額しか支給されない。途上国の労働問題に取り組むアメリカのNGO、Global Exchange の調査によると、「GAPの工場では、労働時間は12～16時間、残業手当は支給されない。工場内は込み合っていて、ものすごい暑さ、衛生状態も悪く火傷や怪我、感電などの安全対策が不十分だ。住環境も悪く、狭いところに沢山の人が詰め込まれる。労働者として働いているのは、主に10代～24、5才の若い女性だ。企業は高校も出ていない、権利意識の低い彼女たちを好んで採用する。多くは、農村から出稼ぎに来ている人たちだ。農村にやってきた採用担当者に、「いい条件で働ける。家族に仕送りができる」と言われて連れて来られ、働いている。農村では現金収入が得られないので、生活の苦しい彼女たちはやむなく出稼ぎに来ているのだ。フィリピンでは、「工場の仕事」だと騙してマニラの歓楽街に連れて行き、売春をさせていることもあるという。彼女たちは、決して町の生活に憧れて村を出るのではない。家族の生活の為にお金を得ようと、やってくるのだ。しかし、実際には得られる給料はごくわずかで、自分が暮らしていただくだけでやっとだ。スラム街のようなところに住み、交通費を節約する為歩いて工場に通う人もいる。その国の最低賃金よりはるかに低い額の給料では、殆ど家族に仕送りをする事などできない。フィリピンでサッスーンの服を縫うお針子たちは、朝7時から夜10時までのシフトで働く。こ

れだけでもとんでもないことなのに、週に2日は午前2時まで残業させられる。労働者には残業を断る権利はなく、断れば解雇されることさえある。中国では、3日シフトというものがあり、労働者は機械の下で寝かされる。厳しい長時間のシフトの後、労働者が過労死することもある。^{iv}

債務帳消しキャンペーン

債務帳消しキャンペーンから圧力があって1996年に先進国は貧しい国々の債務を帳消しすることに決めた。しかしこれは単純な帳消しではなかった。対象は約40カ国だけで、しかも帳消しを受ける為の厳しい条件(民営化、教育や福祉の予算の削減など)を満たさなければならない。しかもこの条件を満たしても債務を100%帳消しされるとは限らない。又対象となる国々の中で条件が厳しい為、帳消しを頼まない国々もある。又頼んでも対象とならない貧しい国々も沢山ある。

現状

2009年未までにアフリカとラテンアメリカで26カ国の殆どの債務は帳消しされた。これは10兆円にも上った。世界銀行によると帳消しを受けている国々の福祉予算は75%増えている。^v しかしもっとも貧しい国々は今でも、毎日、100億円を返済している。^{vi} というのは先進国は貧しい国々の債務を急いで帳消ししようとしていない。^{vii} 金融危機に銀行と他の金融機関を助ける為に先進国は1800兆円を出した。^{viii} というのは先進国は貧しい国々の債務をすべて帳消ししても大きな金融的な負担にはならない。(貧しい人々を助ける事より豊かな国々の銀行を助ける事が重要?)帳消しできるけれどやらない。やりたくない。私たちはもっと努力しなければならない。

保健の予算と教育の予算の合計より債務返済の予算の方が大きい国々がある。例えば2008年にレバノンの予算の52%は債務返済の為に、保険と教育を合わせた予算は23%だった。^{ix}

ケース・スタディー (1) :ブルンジ共和国
人口の80%は一日に100円以下の生活だ。
60%=読み書きができない。債務帳消しの為、
50億円を保険、教育と食料安全に回している。
(ガーナ、ナイジェリア、ニカラグアとタンザニアのケース・スタディーもある。)^x

ケース・スタディー (2) :レソト王国^{xi}
債務全額 : 690億円
債務返済予算 = 全予算の7%
教育予算 = 全予算の7.2%
HIV/エイズ患者 = 270,000人 (人口の15%)
小学校に通わない子供達 = 34.6%
貧困最低線以下の生活をする人々 = 人口の50%
レソトは債務帳消しの対象国にならない = 世界銀行などから帳消しを受けることができない。
研究室は少ない。毎月看護師が辞めているが代わりになる新しい看護師は雇われない。医者も辞めている。それは隣の国々の医者の給料の三分の一だけだからだ。

環境債務

最近貧しい国々は新しい債務の話をする。それは気候債務、あるいは二酸化炭素の債務のことだ。(他の環境破壊もそうだが) 気候変動・温暖化を起こしたのは先進国だが、(気候変動の為に) 一番困っているのは貧しい国々だ。それで(貧しい国々の) 温暖化対策の為に必要な金額は先進国が貧しい国々に払うべきだと言う。この金額を貸せば新しい債務になる為に貸してはいけない。無償ですべきだ。^{xii}

日本

Global Governance and Japan (2007年) という英文の本に白井さゆりさん(慶應義塾大学の教授)は次のことを言っている:

● 日本は貧しい国々の為の援助(ODA)を増やしたくない。それは(1)国内の金融的な問題を解決したい(2)援助過労(3)サハラ以南のアフリカとの絆は弱い為だと言う。

● 2003年に、帳消しの対象となる国々の債務を100%帳消しすることに決めたにも関わらず、日本には債務を帳消ししたい気持ちはない。日本からの援助の三分の一は郵便貯金とかんぽから、10%は国債からだ。^{xiii}

Oil Change International (団体)のDrilling Into Debtというレポートによると、地下資源に恵まれている国々は経済的にも恵まれると思われる。しかし必ずそうではない。逆のケースが多い。多くの場合は資源に恵まれれば恵まれるほど貧困や債務が問題となる。これは「資源呪い」というそうだ。NGOなどが世銀に頼んで、2001年に世銀は世銀の石油、採鉱、石炭などの為の「援助」との貧困救援の関係を調査することにした。調査の推薦としては世銀が石炭と石油への「援助」を辞めるべきということだった。石油、石炭、採鉱が問題を起こす例が沢山上げられた。^{xiv}

Global Witness (団体)のUndue Diligence: How banks do business with corrupt regimesというレポートによると先進国の銀行にも貧しい国々の腐敗の責任がある。銀行が貧しい国々の独裁主義者などの貯金を受け入れる=銀行が独裁主義者と協力する。

96頁にSumitomo Trust & Banking Companyが載っている。

107頁によると日本はFATF（金融行動特別専門委員会？）の推薦を殆ど無視していると言われる。コメント：先進国には「腐敗がある為帳消しをしない方がいい」とよく聞くが以上のレポートによると先進国にも貧しくさせられた国々の腐敗の責任がある。^{xv}

日本の債務帳消しキャンペーンのデジタルニュースレター

インターネットを利用する人は、<http://jdebt.socialforum.jp/> に第一号と第二号が読める。

もっと詳しく知りたいなら

● Briefing Notes: Jubilee USA Releases Policy Reports

FEB. 08 BRIEFING NOTE THREE: Are IMF and World Bank Economic Policy Conditions Undermining the Impact of Debt Cancellation?

<http://www.jubileeusa.org/>

● The Debt in figures (2009)

<http://www.cadtm.org/The-Debt-in-figures>

私の悩み／希望：日本にも債務問題を専業とする人がいてその人の給料を払えるサポーターがいたら、最高だ。

お金（送料）も紙も節約したいと思うのでこのニュースレターをメールで送信して欲しい人は私に連絡を下さい：debt.japan@gmail.com

又、送って欲しくない人も連絡を下さい。

i

http://blog.foreignpolicy.com/posts/2010/01/19/the_three_entities_that_need_to_cancel_haitis_debt

ii

<http://www.jubileeusa.org/jubilee-act/haiti-debt-cancellation-resolution/resources-on-haitis-debt.html>

ⁱⁱⁱ ‘New Haiti’, Same Corporate Interests: Isabel

Macdonald の略（私の訳）。

<http://www.thenation.com/doc/20100215/macdonald>

^{iv} <http://mscience.jp/bland.htm>

^v Debt Relief Works: The Impacts of Debt

Cancellation in Africa and Latin America

<http://www.jubileeusa.org/resources/publications/debt-relief-works-project.html>

^{vi} Expanded Debt Cancellation: A Key Tool to Fight Global Poverty

<http://www.jubileeusa.org/resources/debt-resources/policy-papers.html>

^{vii} Falling Short: A Progress Report on the G-20's Commitments to the World's Poorest

<http://www.jubileeusa.org/truth-about-debt/debt-related-issues/g-20.html>

^{viii} Falling Short: A Progress Report on the G-20's Commitments to the World's Poorest

<http://www.jubileeusa.org/truth-about-debt/debt-related-issues/g-20.html>

^{ix} Debt relief as if justice mattered

<http://www.neweconomics.org/publications/debt-relief-if-justice-mattered>

^x Debt Relief Works: The Impacts of Debt

Cancellation in Africa and Latin America

<http://www.jubileeusa.org/resources/publications/debt-relief-works-project.html>

^{xi} Expanded Debt Cancellation: A Key Tool to Fight Global Poverty

<http://www.jubileeusa.org/resources/debt-resources/policy-papers.html>

^{xii} The climate debt crisis

<http://www.jubileedebtcampaign.org.uk/The%20Climate%20Debt%20Crisis%20%20new%20report+5121.twl>

^{xiii} Global Governance and Japan, edited by Glen D. Hook and Hugo Dobson, Routledge, London, 2007

^{xiv} <http://priceofoil.org/thepriceofoil/debt-poverty/>

^{xv}

http://www.globalwitness.org/media_library_detail.php/735/en/undue_diligence_how_banks_do_business_with_corrupt